

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成20年4月11日

【評価実施概要】

事業所番号	1571700465
法人名	特定非営利活動法人 心つくし会
事業所名	グループホームありがとうの家
所在地	〒959-1704 新潟県五泉市村松甲5600番地1 (電話) 第1: 0250-58-8313 (FAX兼用) 第2: 0250-58-7446

評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階
訪問調査日	平成 20年 2月 21日

【情報提供票より】(19年 12月 15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 11月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	14 人
利用定員数計	18 人
常勤	13人、非常勤 1人、常勤換算 9.1人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋 造り
	1階 建ての 1 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,000 円	その他の経費(月額)	17,000 円	
敷金	有(円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(130,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	- 円	昼食	- 円
	夕食	- 円	おやつ	- 円
	または1日あたり		1,000 円	

(4) 利用者の概要 (19年 12月現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	3 名	要介護2		7 名	
要介護3	6 名	要介護4		2 名	
要介護5	- 名	要支援2		- 名	
年齢	平均 81.6 歳	最低	77 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	石曽根医院、いいはま歯科クリニック、南部郷総合病院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは静かな住宅地の中にあり、向かいには県立高校、近くには村松商店街、病院・医院も近くにあるなど生活の便が良い立地にある。敷地内にはデイサービスセンターや認定こども園、グループハウスがあり、日常的な交流が行われている。
法人の理事長もホームの利用者と関わり、安心できる顔見知りの関係が作られている。ホームの職員は明るく温かな雰囲気であり、利用者に対しては丁寧でさりげない支援を行なっている。家族、来訪者への対応も明るく丁寧である。家族に毎月直筆の手紙で利用者の近況報告を送ったり、必要な方には連絡ノートを用意したりと、家族の気持ちに寄り添いながら工夫を行い、利用者の支援に結び付けている。
ホームの食事は冷凍食品等を使用しない手作りの料理が基本であり、高齢者に馴染みのある食材が取り入れられ、バランスや見た目を考えながら食欲のわく食事の工夫をし、食を通じた生活支援に取り組んでいる。対面式の台所から調理の音や匂いが時間ごとに感じられ、家庭的な雰囲気があった。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価の結果は会議で話し合われ、改善に向けて取り組んでいる。「避難訓練」は、防災訓練を小まめに行うようにした。今後は、更に様々な想定で訓練を行って行く予定である。「緊急時の手当」は、これまでと同様に救急法の講習を年一回全職員が受けるとともに、今年度より法人内に看護師を配置し、日常的にアドバイスや看護的指導を受けられるようになった。「継続的な研修の受講」については、勤務調整等しながら積極的に外部研修に参加するとともに、研修内容を全職員に周知するようにした。今後、現任研修として他施設への実習を行なうことも具体的に計画している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員が評価の意義を理解し、職員それぞれが日々のケアを振り返りながら自己評価を行った。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 利用者の様子や運営状況の報告、外部評価結果等について意見交換を行っている。協力医療機関の医師が参加しており、医療面のケアについてアドバイスをもらっている。先回の外部評価の結果を受けて、参加者から研修方法についての提案があり、近々それを取り入れることになっている。市の担当者も会議に毎回出席し、管理者とは顔見知りの関係となっており、困った時にはいつでも相談できる関係が出来ている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 日頃から、家族が相談しやすい意見を言いやすい関係作りを努めており、入居者の暮らしびり等を書いた直筆の近況報告と、金銭出納帳のコピーを毎月家族に送付している。また、利用者の居室に職員と家族との「連絡ノート」を設けるなど、家族の希望や状況に応じて工夫し、得られた意見は会議、ミーティングなどで検討し、運営に反映させている。また、ホーム便りを季刊発行し、家族に送付している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近所の方から野菜をいただいでおり、そのお礼に年1回、ホームの食事会に招待している。法人主催の納涼祭には、地域の方が多数来訪してくれている。利用者は、向かいにある村松高校の行事に参加したり、市主催の行事にも参加したりしている。また、希望の物や日用品等の買い物で地域の商店街に日常的に外出している。その他、定期的ではないが芸能披露のボランティア受け入れなども行ない、地域との関わりが徐々に深まってきている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初から「受容・尊厳・共生」を理念として掲げており、職員は、支援の三本柱として常に大切にしている。運営規程やパンフレット、重要事項説明書には、わかりやすく噛み砕いた文章で理念を記載している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人本部部長や管理者は、ミーティングや職員会議などで理念を踏まえながらケアについての考え方を職員に伝えている。また職員各々が折に触れて理念の意味を振り返り、理念実現に向けて前向きに取り組んでいる。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族には入居申し込み時と入居時に理念を伝え、入居後も季刊紙のホーム便り等で理解を得られるように努めている。玄関や居間には分かりやすく理念を掲示し、訪問者も目にできるようにしている。運営推進会議でも、日頃の取り組みを伝えるとともに、ホーム便りを配布している。		地域の方にホームの存在を知ってもらい、理解、交流を深めていくためにも、地域へ理念が浸透するような具体的な取り組みによりいっそう期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所の方から野菜を頂いており、お礼に年1回ホームの食事に招待している。法人主催の納涼祭には地域の方が多数来訪している。利用者は向かいにある村松高校の行事や市主催の行事に参加したり、地域の商店街で買い物するなどしている。定期的ではないが、芸能披露の地域ボランティアも受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が評価の意義を理解しており、自己評価を職員それぞれが行い、振り返りの機会として活用している。外部評価の結果は会議で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況、運営状況、外部評価結果等について報告し、意見交換を行っている。協力医療機関の医師が参加しており、医療面のケアについてアドバイスももらっている。先回の外部評価結果を受けて、参加者から研修方法についての提案があり、近々それを取り入れることになっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者は毎回運営推進会議に参加している。法人本部部長、管理者ともに市の担当者とは顔見知りの関係になっており、困った時にはいつでも相談できる関係が出来ている。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修会に職員を派遣し、報告書の供覧や会議・ミーティングでの伝達により、理解・学習の機会を設けている。新聞に虐待関連の記事が掲載されていた時などは、法人本部部長、管理者がミーティングで伝え、更なるモラル向上や知識の吸収を促し、虐待防止の徹底に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶり等を書いた直筆の近況報告、金銭出納帳のコピーを毎月家族に送付している。健康面で変化が見られた時にはその都度報告し、受診報告についても電話で伝えている。職員の異動の連絡、挨拶は、家族面会時に行っている。季刊発行のホーム便りも家族に送っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族が相談や意見を言いやすい関係作りに努めている。家族の希望や状況に合わせて、利用者の居室に職員と家族との「連絡ノート」を設けるなどの工夫をしている。玄関に苦情・相談意見箱を設置し、苦情受付担当者、第三者機関を明示している。得られた意見は、会議やミーティングなどで検討し、運営に反映させている。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が法人本部部長に直接意見を言えたり、管理者を介して本部へ意見を伝えられる体制がある。ホームの運営については職員会議で意見が出され、運営に反映されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員が代わることで利用者、家族のダメージを理解しており、法人内での異動は極力しない考えを持っている。やむなく離職があった場合は、離職する職員の担当利用者の混乱やダメージが軽減するよう、他職員がフォローを行うなど配慮をしている。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	業務・ケアに関すること、事故防止、感染症対策等のマニュアルが整備され、採用時に全職員に配布し、周知・理解されている。新人職員には管理者がマニュアルに添って説明を行っている。利用者のケアについての見直しは適宜、職員会議等で職員の意見を反映し行っているが、それをマニュアルに追加したり訂正するまでには至っておらず、定期的な見直しの時期も定められていない。		具体的なケア内容は、適宜見直しをし改善を図っている。それをマニュアルにも追加や訂正をし、現状に即したマニュアルとするとともに、定期的なマニュアルの見直しを行なう体制づくりを期待する。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現任研修として、多くの職員が外部研修を受けることができるよう勤務調整等しながら、積極的に参加している。外部研修の内容は、会議や書面を通して他の職員にも周知されている。毎朝のミーティングでは、法人本部部长や管理者が新聞記事等の紹介を通して、ケアや業務において大事なことを伝えている。新人研修は採用後すぐに管理者が行っている。今後は新たな現任研修として、他法人のホームに依頼し、職員を実習に派遣する計画が具体的になされている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症実践者研修の実習等の受け入れや他施設への実習を行う中で交流を図っている。現在、他グループホームの見学や実習等の実施が具体的に計画されており、サービスの質の向上に向けて前向きに取り組んでいる。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	部長や管理者は職員のストレス軽減に向け、職員の話聞く機会をもてるように、積極的に声かけをおこなっている。また、職員の親睦会を行い、ストレスの少ない関係づくりに努めている。運営者は休憩の必要性と重要性を理解しており、法人の敷地内に他事業所と共同の休憩室を設けているが、ホームから少し離れているため業務や場所の都合上十分な休憩が取りづらい。また、職員個人のロッカー等がなく、職員の私物の管理が出来ない状況にある。		休憩時間や場所、私物の管理等について、運営者と職員と話し合いの機会を更に設け、職員の勤務環境によるストレスが少しでも軽減されるように検討されることが期待される。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	馴染みながらのサービス利用ができるよう、本人・家族の状況等に合わせ、入居前に本人が体験利用することが可能である。また、見学時などには、一緒に食事をしたりすることも勤めている。利用前の環境を知り、本人が安心し納得できる環境を準備するために、自宅や利用されていた施設に職員が出向いたりし、少しずつ馴染んでいけるような対応に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が伝えたい感情、話を満足いくまでそばで受け止め、一緒に喜び、悲しむ姿勢で接している。助け合い、支えあいの感情を利用者から自然と引き出し、日々の活動、安心に繋げている。利用者から「何かあったら声かけなよ。手伝うから」などといった言葉をもらうこともあり、夜勤時などで緊張しているときなど心の支えとなってもらっている。理事長も交えて利用者とともに楽しむこともあり、支え合う関係が築かれている。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の本人に対する思いを汲み取るよう努め、本人の健康状態や暮らしぶりの報告を、月1回の手紙や面会時、受診時等にこまめに行なっている。些細なことでも相談しやすいように、あたたかさを持った親切な対応で接している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向を把握するために、センター方式のアセスメントを使用している。本人からの把握が難しい場合も、家族からの情報を得たり、本人の表情や言葉等から気持ちを感じ取るよう努め、本人らしい暮らしに近づこう検討し、ケアに取り入れている。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしについて、センター方式のアセスメントシートの一部を入居前に家族に渡し、記入してもらっている。入居後も本人、家族からの情報を聞き取り、把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向は、普段の会話をそのまま記録に残すことで把握している。計画作成担当者は、介護計画の作成や見直し前に職員と話し合いを行い、本人の意向や家族の意向、主治医の意見などを取り入れた介護計画を作成している。家族には介護計画原案の説明時に意見、要望等を再度聞き、チームでの介護計画作成を行なっている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に定められた期間内に評価、話し合いを行い、期間に応じた見直しを行っている。状態に変化が見られた時にも、家族や医師などの関係者で話し合ったり、電話での相談を行い、現状に即した新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内のデイサービスでレクリエーションに参加したり、認定こども園との日常的な交流ができる。利用者個々の状況に応じて通院支援や、希望の理美容への送迎支援、家族の都合で迎えに来られない場合の自宅への外出時送迎支援等も行っている。また、実費を要するが、家族の面会時にホームの食事を提供したり、宿泊したりすることも可能である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院が月1回、また体調不良時に往診してくれている。希望の病院がある方には、基本的には家族付き添いで受診してもらっている。状況的に難しい場合は、職員が付き添って受診している。協力医院の医師は、運営推進会議のメンバーにもなっており、ケアに関するアドバイス等協力体制が築かれている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期への支援は、ホームの設備や医療面での対応の限界等により難しい状況であるが、家族には入居時に重要事項説明書等を基に納得いくよう説明を行い、特別養護老人ホームへの申し込み等の支援も行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の記録は施錠できる場所に保管している。法人本部部長、管理者はミーティング等で個人情報保護の必要性や内容等を繰り返し伝え、徹底するように努めている。職員の言葉かけはさりげなく、柔らかく、温かみのあるもので、内容もプライバシーに配慮されたものである。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の前向きな気持ちを大切に、そばで温かく見守りながら支援がされていた。晩酌をする方には晩酌を、一人で過ごしたい方にはさりげなく見守りを、帰宅願望のある方には一緒に自宅まで同行する等、その人らしさへの支援が希望に沿ってなされている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	冷凍食品などを使わずに、昔ながらの和食中心の手作り料理を食欲の沸く盛り付けと器で提供している。食卓には職員も加わり、それぞれ顔を眺めながら食事やニュースの話題で和気あいあいと食べている。利用者の希望や能力に応じて、料理の下ごしらえや下膳等を行なってもらっている。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄のパターンやリズムを把握し、出来るだけトイレで排泄ができるようにさりげない声かけや誘導を行っている。個々に応じてオムツ使用の必要性も見極め、夜間のみ使用する等一人ひとりの力に合わせた支援がされている。男性用小便器も設置されており、それぞれの習慣に合わせた支援も検討されている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	春から秋は、毎日入浴を行なっている。冬期間は原則、2つのユニットが交互に1日おきで行っているが、いずれかのユニットが必ず入浴をしているため、希望やタイミングに合わせて入浴できる状況にある。入浴拒否がある方には、個々のタイミングを見つけて入ってもらおう等、楽しんで入浴できるよう工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの性格や力、培ってきたことを把握し、意欲や張り合いに繋がる前向きな言葉での働きかけを意識して行なっている。一人では出来ないことも職員と一緒にやる等して、達成感を感じられるように努めている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物やドライブ等、日常的に外出する機会がある。希望があった場合は、自宅へ職員が同行したり、欲しいものを職員と一緒に買いに出かけるなど、日常的な外出支援をしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	複数の職員が身体拘束についての研修会を受け、全職員にその内容が周知されている。法人本部部长、管理者がミーティングで新聞記事を取り上げる等して指導、助言をしている。向精神薬等になるべく頼らない支援、言葉での拘束も含めて身体拘束のないケアに意識的に取り組んでいる。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	5時から21時まで玄関は開錠されており、訪問者対応のため、戸が開くと音楽が流れるようになっている。利用者の傾向や気持ちを職員間で共有し、連携をとりながらさりげなく見守り、所在確認を行っている。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書は当日のうちに原因や予防法を職員で検証し、作成している。事故を未然に防ぐことができるように、利用者一人ひとりの状態や性格に応じた事故防止対策に取り組んでいる。		
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署による救急法の講習を、職員全員が年一回定期的を受けている。法人内に看護師が配置されており、日常的に利用者についてのアドバイスや、医療面での情報提供、指導を受けている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	近隣に居住している職員が多く、法人内の緊急連絡網を作成している。また、ホームの事務室には消防署直結の緊急通報電話機が設置されている。防災訓練を小まめに行っており、今後更に様々な想定での訓練を取り入れる予定である。法人として、非常時用の飲用水や食糧の備蓄もしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本を参考に、和食中心でバランスのとれた食事に気をつけながら、法人内の有料老人ホーム職員と交代で献立を作成している。利用者の食事は日誌に記載し、体調の悪い時には栄養補助食で補う等の支援をしている。個々の状態に応じて、粥やトミ付け等に対応している。本人の好きな飲み物を提供することで水分量の確保を図り、特に入浴後の水分補給は確実にしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングとの対面式キッチンがあり、食事の匂いや音など家庭的な雰囲気を感じることができる。高齢者が座りやすい高さの畳の小上がりも用意されており、神棚やダルマが置かれ、落ち着いて過ごせる雰囲気がある。全体的に木や緑のあたたかみを感じる空間である。トイレの場所が分からなくなる利用者のために、床にトイレまでの道のりを繋ぐ矢印や、さりげない目印を掲示するなど工夫がされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には備え付けのクローゼットや物干し竿等が用意されているが、使い慣れたタンスや座イスなどを本人の好みに合わせて持ち込んでもらっている。また、家族が作った生家付近の写真や地図、本人が書いた「私の目標」を飾るなど、利用者一人ひとりの個性や好みを取り入れて居心地よい居室となるように工夫している。また、一人ひとりに応じて居室内の手すりの長さを変更するなどの工夫もされている。		